

巻 頭 言

長野県透析研究会会長 上 條 祐 司

2020年初頭に中国武漢からはじまった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中に拡散し全世界を混乱に陥れ、長野県透析研究会の学術活動にも大きな影響を与えました。

2020年11月に開催予定の第68回長野県透析研究会学術集会は、史上初の長野県透析研究会誌上での論文発表という形式で開催し、その後の第69回、第70回、第71回の長野県透析研究会学術集会はweb配信を利用したハイブリッド集会として開催させていただきました。

今回の長野県透析研究会誌は、2024年9月8日に5年ぶりに完全対面開催で行われた第72回長野県透析研究会学術集会での発表内容を中心に構成されています。第72回長野県透析研究会学術集会では、「高齢化社会に根差すwell-beingな腎代替療法を考える」といった学術集会テーマのもと、一般演題の他、災害対策講演会「多職種で考える災害対策とは？～災害時連携の重要性と展望～」、大会長企画シンポジウム「高齢での腎代替療法の療法選択を多職種でどう考えていくのか？」といった特別企画が生まれ、大変盛況な研究会となりました。おそらく参加された多くの皆様も学術集会の内容に満足されたのではないかと思います。この研究会誌により、学術集会での熱いディスカッションを思い起こして頂き、日々の診療に役だてて頂ければと思います。

2022年から長野県透析研究会誌はオープンアクセス電子ジャーナルになりました。オープンアクセス化により、長野県から発信した研究内容は日本中で利用されることが期待されます。論文のオープンアクセス化においては、個人情報の保護や倫理的問題や論文内容に問題がないかの査読によるチェックが必須となります。今回も、多くの査読者の皆様のご協力を得、web公開前に論文チェックを行うことができました。査読者の皆様には、多くの時間を割いて頂いたかと思えます。この場を借りて査読者の皆様に感謝申し上げます。

2025年現在、透析医療における大きなトピックとしては、日本透析医学会で長年継続的に行っている透析患者の統計調査において、2023年末の透析患者総数が2022年末に引き続き前年を下回った、ということが示されました。透析患者数の明らかな減少は、慢性腎臓病・糖尿病性腎臓病の重症化予防対策や新規薬剤開発による好ましい成果と思われ喜ばしいことではありますが、透析患者さんの死亡の増加という要素もあります。我々、透析従事者は、可能な限り、透析患者さんの生命維持、社会復帰、QOLの向上が図れるように日々努力する必要があります。現在、透析患者さんを取り巻く多くの問題や課題があります。透析患者の高齢化やそれに基づくサルコペニア・フレイルなどの問題、尊厳ある死と透析医療との折り合い、保存的腎臓療法や腎臓リハビリといった新たな話題、共同意思決（SDM）に基づく腎代替療法選択など、様々なトピックがあります。また、医療材料や光熱費や医療機器など、様々な物価が高騰しているにも関わらず保険点数の増加はなく、多くの医

療機関の経営を圧迫している現状があり、今後、医療コストなどにも配慮しつつ医療の質を担保していく必要があります。

長野県透析研究会や長野県透析研究会誌は、これらのトピックに対して様々な観点から議論をし、得られた知見を世界に発信できる存在になることを目標にしたいと思います。長野県透析研究会の皆様におかれましては、目標に向かい心を一つにしてともに歩んで頂くことをお願いしたいと思います。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。